環境パートナーシップちば だより
―つながれ ひろがれ―
Vol.６１

編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043－246-2180
ＦＡＸ 043－246-6969

平成２０年度定期総会開催

≪第一部 総会≫

5月17日(土)、船橋市女性センター研修室にて、「環境パートナーシップちば」の平成20年度の定期総会が開催されました。

若月聡氏の司会で始まり、代表の加藤賢三氏より挨拶の後、千葉県環境生活部環境政策課温暖化対策推進室主幹(兼)温暖化対策推進室長 小澤誠一氏、千葉県環境財団環境管理グループ、千葉県温暖化防止活動推進センター事務局長 山口幸一氏よりご挨拶いただきました。

その後、議長に内野英哲氏、書記に石川好隆氏が選出されました。平成19年度事業を加藤賢三氏、収支決算を桑波田和子氏、会計監査報告を大西優子氏より報告がありました。事業報告は規約の活動に沿っての報告となりました。19年度は10周年記念事業として、環境パートナーシップフォーラムを開催し、よりよきパートナーシップを推進するための当会の方針など検討されたこと、千葉県環境学習基本方針、環境基本計画、生物多様性千葉県戦略などに大きく関ったことが報告されました。

次に、平成20年度事業計画（案）、予算(案)、役員改選（案）の審議に入りました。20年度事業の中に、千葉県環境政策課が進めていく CO2きゃらばん隊、千葉エコイズム2008への名義後援を追記することの意見が承認されました。予算には、会報「だより」のダイジェスト版の印刷代、エコウォーキングマップの印刷代が計上され承認されました。

役員改選では、広報部長に小関氏、事業部長に若月氏、会計に日比野氏と新たな運営委員も加わり新体制でスタートすることが承認されました。

会場からは、会費の回収率を高めるためには、会員に出会った際に会費を頂くなどの工夫が必要との意見が出されました。「環パちば」が会員にとって魅力あるもの、身近なものとなる工夫をすることが、会費納入にもつながることになるとの意見もありました。この課題を持って20年度の活動に反映させたいと執行部からの意見がありました。また、総会には設立当初からの会員の方も参加されていまして、当時の広報部長の横須賀氏からは、「だより」のデザインを御宿の永島 輝代さん、編集に小西由希子さんなどが加わっていたことをお聞きしました。さらに、COP3へ環パちばから京都へ派遣され参加した栗原氏からは、電車の乗車客も COP3へ向かう方々だったこと、先駆的な活動だったことなど当時の状況をお話していただきました。

≪第二部「団体交流会」≫

団体交流会は、荒尾氏の進行で進められました。ここで報告していただく団体は、総会案内の際に活動報告を募集しエントリーされた団体や当会からお声掛けした方です。千葉県自然観察指導員協議会は小西氏、ストップ地球温暖化千葉推進会議は内野氏、NPO 法人千葉まちづくりサポートセンターは栗原氏、アースコン・マツドは土田氏の4名の方から会の活動報告をしていただきました。それぞれ15分間ではお伝えできないくらいの活動を展開されていました。地域、行政、市民、企業等とのパートナーシップを基に活動している力強い報告でした。今後も環パちばの団体会員として交流を深め、ゆるやかにつながりたいものです。

≪茶話会≫

茶話会では、女性会員の出席が少ないとの意見がありました。シンポジウムなど他の会場でも男性が多いですが環境問題を考えるとき、子育てや家庭生活などの目線から女性の存在は大きく、今後働きかけていく必要を感じます。今回の総会では会員歴の長い方、総会に参加されて会員になった新鮮な方とご一緒できましたが、会員の皆さんとご一緒できる「環パちば」として歩みたいと思いました。

(文責 桑波田)

環境パートナーシップちば総会挨拶

千葉県環境生活部環境政策課温暖化対策推進室長　小澤　誠一

「環境パートナーシップちば」の総会にお招きいただきありがとうございます。本来であれば、当課の庄司課長が出席し、ご挨拶申し上げるところですが、本日は、私が代理で出席させていただきました。僭越ながら、私から一言ご挨拶申し上げます。

あらためて申し上げるまでもなく、温暖化の問題は、「待ったなし」で取組まなければならない地球規模の大きな問題になっています。

お配りした資料の裏面をご覧ください。

・本県の二酸化炭素排出量状況の説明・県政世論調査の説明

こうした温暖化の問題は、生態系にも影響を与えること、また、環境問題を解決するには、自ら進んで環境を守るために行動する人づくりが必要不可欠なことから、県では、昨年度

・県の環境計画の基本となる「千葉県環境基本計画」
・温暖化の防止と生物多様性の保全・再生とを一体的に捉えた「生物多様性ちば県戦略」
・千葉県学習基本方針

を、皆様方 NPO の方々等と一緒に策定あるいは改定をいたしました。

それらの基本計画や方針を踏まえ、本年度は、実行の年として、「地球温暖化防止と生物多様性保全」推進きゃらばん隊を結成し、県下全域で、県民や NPO、企業などを巻き込んだ普及啓発活動を展開することといたしました。

お手元に配布した資料の表面をご覧ください。

・出動式の説明

資料の裏面をご覧ください。

・それぞれの活動予定を紹介（各事業については，それぞれ具体的になり次第、ご連絡いたします）

こうした取組には、ぜひとも皆様方のお力添えが必要です。当面、２７日の出動式及び普及啓発活動にご出席・協力いただければ大変ありがたいと思います。

私が所属する温暖化対策推進室は、環境学習基本方針を担当しておりますが、その方針改定に当たり、皆様方の積極的な参加をいただきました。深く感謝申し上げます。

「環境パートナーシップちば」さんは、行政、企業などのパートナーシップによる活動の展開を目的としていると伺っています。

今後も、皆様方の更なる発展、ご活躍が、千葉県の持続可能な社会の実現に大きく寄与していくものと思います。

繰り返しになりますが、皆様方のご活躍を祈念し、以上、色々申し上げましたが、私からの挨拶とさせていただきます。

千葉県環境財団環境管理グループ
千葉県温暖化防止活動推進センター事務局長　山口　幸一

ただいまご紹介に預かりました、千葉県環境財団環境グループの山口です。

本来ならば、当財団の理事長小久保がご挨拶いたすべきところですが、本日所要のため私が代理とさせていただきます。

環境パートナーシップちばさまにおかれましては、昨年 6 月に創立 10 周年を迎えられ、大変おめでとうございます。遅ればせながらお祝い申し上げます。これから創立 30 周年、50 周年に向けますますご活躍、ご発展をしていかれることと存

じます。

環境パートナーシップちばさまは、名前のとおり千葉県内で活動をしている個人、団体が企業や行政とパートナーシップを図りながら、持続可能な社会に向けて行動している団体でゆるやかなつながりでつながっている団体であるとお聞きしております。

パートナーシップ？協働とは何だろうと改めて考えたとき、良好なパートナーシップを継続していくためには、環パさんの「ゆるやかなつながり」がキーになるのではと思います。お互いに尊重し、ゆるやかでありながら弾力のあるつながりが重要ではないかと思います。

昨年のご挨拶のとき、千葉県のホームページで「持続可能」をキーワードに検索しますと、475 件ヒットがあったことを申し上げましたが、最近もう一度検索しましたら 852 件とこの１年間で、ほぼ倍になっております。持続可能な社会実現のために活動しております皆様方が果たす役割は、ますます重要になってきていると感じております。

また、創立当初から当財団とは関わりが深く今も当財団に事務所を置くなど千葉県の環境についても、当財団とパートナーとして取り組んでおられるところでございます。

当財団といたしましても、今一層の協力と支援をおこなって行きたいと考えております。

「環境パートナーシップちば」様のますますのご発展、ご活躍を祈念いたしまして、簡単ですが挨拶にかえさせていただきます。

環境パートナーシツプちば代表　　加藤　賢三

本日はお忙しい中、多くの皆様にお集まりいただき、平成 20 年度の総会を開催できますことに御礼を申し上げます。当会も 11 年目を迎えることになりました。今日お集まりの皆様の中で、久しぶりにお目にかかる懐かしい方々との語らいも楽しみにしています。また、県環境政策課から小澤様と県環境財団から山口様に来賓としてお越しいただき、まことにありがとうございます。また、総会後に行われる団体交流会では、千葉県自然観察指導員協会、ストップ地球温暖化千葉推進会議、NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター、アースコン・マツドの代表者の方々の活動紹介があります。日ごろの活動をお互いが知ることや交流により、当会の趣旨でもある市民団体のつながり、輪が一層広がることを期待しています。

いまの地球環境は文字どおり待ったなしの状況になっています。県としては、昨年度には、環境基本計画、生物多様性戦略、環境学習基本方針ほか、さまざまな重要な案件が目白押しで成立しています。そのような中で、当会を含め多くの市民団体も参画していますので、言うまでもなく市民の役割も大きいのですが、同時に市民、企業、行政との協働の役割も大きいと言えます。

協働のあり方としては、1＋1が3あるいは4になるようなコラボレーションを期待しています。現実には、パートナーシップ、協働という言葉は、ここ１０年来、環境をはじめとした行政のどんな施策の中でも、市民参加、情報公開とともに不可欠なものとなってはいますが、その実現、推進はどのようにすればよいのか、手探りの状態で模索し続けてきています。

とはいえ、必ずしも十分とはいえないかもしれませんが、当会は結果として「環境シンポジウム千葉会議」、「エコメッセちば」とともに三位一体の連携を図りながら、千葉の環境パートナーシップを担っているといわれています。

平成２０年度の事業計画としての大きな柱は、

1・情報の収集と提供として当会のホームページの充実です。当会がかかわる、あるいはスタッフが集められる情報を迅速にお知らせすることが狙いです。

2．市民・企業・行政及び専門家との協働の実現のための活動として、「エコメッセ２００８inちば」の実行委員長と事務局の担当です。環境活動見本市として昨年度地球温暖化防止に関する環境大臣表彰の受賞をしました。また、環境学習のコーディネータの養成に関しては、早かれ遅かれ、当会のメニューになるように推進して行きます。

3．各地域でのシンポジウム、フォーラムの開催と支援活動については、里山シンポジウム、環境シンポジウム２００８千葉会議、第3回ちばし手づくり環境博覧会に参画します。また、ESDに関するシンポジウムあるいはフォーラムの開催を予定しています。

4．情報誌の発行と啓発、PR活動としては、だよりの61号～66号の発行、及びだよりの1号から50号までのダイジェスト版の発行を予定しています。

5．会員のための研修活動として、「環境パートナーシップエコサロン」の開催、20年度1回目は、ESDの学習会を予定しています。二回目は県の環境政策を

きくエコサロンを予定しています。

6. 環境活動諸問題の相談窓口として、千葉、船橋、松戸、八千代に窓口拠点を置く予定となっています。地域からの草の根活動からはじめるという、原点にもう一度立ち戻る必要があります。また、企業との連携の必要性も指摘されています。市民団体の最も得意とするところは、草の根的な環境学習とその推進です。

最後になりますが、持続可能な社会の実現のための市民、企業、行政の協働の推進が当会の役割でもあり、そのためにも今年の活動を強力に推し進めて行きたいと思います。

新役員紹介

代表：加藤　賢三
副代表：高橋　晴雄
事務局長：桑波田　和子
書記：石川　好隆
会計：日比野　博
会計：橋本　公江
事業部長：　若月　聡
副部長：荒尾　繁志
広報部長：小関　伸夫
副部長：平山　明彦
会計監査：大西　優子
会計監査：小関　光二
アドバイザー：横山　清美、佐久間　隆義、永島　輝代、平松　南、大西　優子
深尾　秀次

事業部長：若月　聡

「事業部長」を務めさせていただくことになりました、若月　聡です。現在は、いくつかの学校・大学関係にて仕事をしています。「環境パートナーシップちば」とはまだ４か月の関わりなのですが、これからよろしくお願い致します。特に、環境学習・ＥＳＤ・各者との協働を、進めていきたいです。理科の教員なので、中学校・高校・大学等で、理科・自然・環境関係の授業・講義をやっていますが、自身の仕事とも結び付けばと思います。

広報部長：小関　伸夫

千葉市花見川区に居を構えております小関伸夫です。広報活動は不慣れですが、この環パだよりやホームページを中心に、本会の活動をタイムリーに情報発信してまいりたいと存じます。35 年前、都内の自宅から自然豊かな印旛沼へ釣行し、オカメタナゴをゲットしてその美しさにびっくりしたことがありました。千葉県の湖沼や里山など往時の自然環境を是非取り戻したいと願っております。会員の皆様方には何卒よろしくお願い申し上げます。

会計：日比野　博　（船橋市在住）

環境問題に関わって僅か２年，経験もさしたる実績もありませんが，今回，「環パちば」の発展に少しでもお役に立てればと思い，運営の一端を務めさせて頂くことになりました。現在，枯れ木も山の賑わい程度の役割しか果たしておりませんが，気候ネットワーク・ＷＷＦジャパン等のメンバーになっております。「環パちば」も実現すべき具体的な目標（ビジョン）を共有し，ベクトルを合わせて歩んでいければ，と考えております。

第４回『ちばし手づくり環境博覧会』開催

ちばし手づくり環境博覧会実行委員　事務局　桑波田　和子

今年の「ちばし手づくり環境博覧会」は千葉市中央区の「きぼーる」アトリウムで、6 月 5 日（木）～10 日(火)までパネル展示、7 日(土)にメインイベントを開催しました。総勢 2,100 名の方の来場者があり、今までに無い成果を収めました。

昨年度までは千葉市が主催する「千葉市環境フェスティバル」の中の 1 つとしてフェスティバルと同じ会場で、講演が始まる時間の前に開催してきました。しかし昨年度、市の意向もあり独立しての開催と経費は市からの負担金で賄うということになりました。市は事務局として関りますが、市民側の役割が大きくなりました。このような状況では市が主催でないことは企業にとって悩ましいこともあるようでした。事務局体制は、市民が主体となりますがお問い合わせの窓口や会場への手続きなど市との連携で進めました。主催は、ちばし手づくり環境博覧会実行委員会・千葉市です。

冒頭にも書きましたが、今年は新しくオープンした「きぼーる」アトリウムをお借りして 37 団体の出展者で体験コーナーも儲けました。今年の最大の試みは、パネル展示期間を 6 日間にしたことです。そこには、午前、午後と 1 人づつ実行委員が当番としてお客様への対応パネルの対応などに関りました。この展示だけでも約 1,100 人の来場者がありました。

7 日のメインイベントは開会式で実行委員長、環境部長の挨拶を頂き、10 時から 16 時までポスターセッションや体験を行いました。来場者は約 1,000 人でした。手づくり博を目当ての方もありますが、きぼーるに子ども科学館もあることから親子連れの方などきぼーるに訪れた方が立ち寄ってくださり新しい方々に参加していただいたことは大きな収穫でした。各展

示の説明や太陽電池等の体験をして和やかで賑やかな会場でした。今、環境に興味がある方が多くなっていますので、ここから何か気づき、自分でできることを実行する人になって欲しいものです。また、会場の大きなテレビで温暖化防止に向けたものや千葉県からお借りした（G20 に使用した）千葉県の自然などの DVD を放映しました。午後には、県が取り組んでいる CO2 きゃらばん隊の活動の一つとして、千葉県環境政策課長も来場されました。

今年は会場設営(5 日)、撤去(10 日)と、パネル机など全て出展団体、実行委員で行いました。まさに手づくりでした。結構大変でしたがさわやかな汗をかいたと思います。また多くの協力もいただき感謝でした。来年度開催に向けても自身と元気を頂きました。

「環パちば」は、実行委員会の中の事務局として参画し、当会の活動紹介と G8 へ向けたメッセージを集めました。このメッセージは環境ユニットの星野さんへお届けし、首相、G8 へ届けることになります。来年度は、環パちばも展示だけでなく体験コーナーも設けたいと思います。

第１１回　『ふなばし環境フェア』開催

「第１１回ふなばし環境フェア」が開催されました。6月7日（土）１０：００～１６：００、船橋市中央公民館にて。入場者数４１００人・短冊３００枚回収、午後に行なわれたミニ講演会も好評であった、とのことでした。

展示・体験・ものつくり等のコーナーがありましたが、中でも、おもちゃを手づくりしたり遊んだりできる「こどもイベント広場」は盛況です。これは、理科離れや自然から遠のく子どもたちに少しでも、考えながらものをつくる機会を設けようということで、始めたそうです。小さな子がキャーキャー走りまわり、自分の風車を回しているのを観ると、嬉しくなりますね。もう少し大きくなった高校生の役割り参加も、嬉しいことでした。

私は、ここに来た人達が、この場所をどう感じているのかな、ということを気にしていました。子どもを 2 人連れてきた方々が、「こういったことは、大切だね」と会話しながら、会場から出て行かれるのを聞きとめました。「環境」を守り育てるためには、その中で遊ぶ感覚と技術を身につけた子ども達が育っていくことが、確かで「大切な」道です。（文責：若月　聡）

エコライフフェア２００８

エコメッセ 2008in ちば実行委員会事務局長　横山　清美

６月５日は環境の日です。1972 年６月５日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では、６月５日を「世界環境デー」と定めています。世界各国では、この日に環境保全の重要性を認識し、行動のきっかけとするためさまざまな行事が行われています。 日本でも、平成 5 年に制定された「環境基本法」が「環境の日」を定めて、 6 月の一ヶ月間を「環境月間」とし、環境省が呼びかけて、全国でさまざまな行事が行われています。

２００８年環境月間行事の中にエコライフフェア 2008 があり６月７日（土）８日（日）に都立代々木公園ケヤキ並木・イベント広場にて、開催されました。環境パートナーシップちばが事務局参加している「エコメッセ 2008in ちば実行委員会」が NGO/NPO ブースに出展してきましたので、ご報告いたします。

NGO/NPO ブースのエコメッセのお隣は、特定非営利活動法人 全国無洗米協会で推奨の製法を PR していました。反対隣は、どんぐりを拾って育てて山に植林していく NPO ドングリの会でした。この春から「久留里どんぐりの森づくり」として国の「分収造林」契約という新しい一歩を房総半島で始めたとのことで、秋のエコメッセで出展してくださることになりました。お店番という性格上、どうしても内容が良くわかるのが、目線のあうご近所になります。最近の我が家のお風呂には、木づかい運動 / (財)日本材木総合情報センターで購入したヒノキの入浴材を入れて楽しんでいます。また、地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)、特定非営利活動法人　太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）はお仲間ですし、他にもリユース封筒『夢～る』推進委員会　(動夢企画)、NPO エコバンクあいち、全国牛乳容器環境協議会、特定非営利活動法人 APEX、NPO 法人 響、東京商工会議所　eco 検定(環境社会検定試験)、Bicycle Ecology Japan / B.E.J.NPO 法人 アースウォッチ・ジャパン、 NPO 法人そらべあ基金、ネットワーク『地球村』　夢プロジェクト、 日本ソーラークッキング協会(JSCA)、NPO 法人バイオマス産業機構 日本環境資源生活文化振興会社、NPO アジア植林友好協会 、NPO 法人 環境情報ネットワークエコネット、NPO 法人 創造支援工房フェイス、慶應義塾大学「My Earth」プロジェクト、再生舎 やっぱり！彩の国＝さいたまから炭ワールド、日本チョウ類保全協会(JBCS)、NPO 法人 就業支援ネットワーク、かわうそドットコムなど様々な団体が出展されていました。

環境省ブースでは、温暖化に対する取組としてのカーボン・オフセット、地球のために～ノンフロンという選択～森林減少への取組み　～わたしたちにできること～、エコ・ファースト、美しい日本の自然　日本の国立公園、エコツーリズム　さあ、はじめよう、エコツーリズム！！、美しい日本の自然　生物多様性ってなに？／里地里山の自然美しい日本の自然国際サンゴ礁年 2008、我が家の環境大臣、みんなで楽しく 3R―親子で Let's try―、チーム・マイナス 6%2008 出展ブースなどの出展がありました。

なんといっても毎年華やかなのは企業・団体ブースで、渋谷区、東京都環境局、プレジデント社、P&G、首都高速道路、昭和シェル石油、ファミリーマート、日本プラスチック燃料、シャープ、国立環境研究所、東神電気、ALCHEMY 、日本自動車工業会、JAF(日本自動車連盟)、環境再生保全機構、佐川急便、日本鉄鋼連盟、「湿地の恵み展～ラムサール条約湿地の観光と物産～」実行委員会、板硝子協会、電気事業連合会、ヨドバシカメラ、発泡スチロール再資源化協会、ローソン「緑の募金」((社)国土緑化推進機構／ローソン)、日清製粉グループ、日本百貨店協会、ポカリスエット、NHK、環境創研、遠東商会、ストップおんだん館(全国地球温暖化防止活動推進センター)と数々の出展でした。

運営事務局から２日間の来場者数は、67,000 人となったとのご報告もいただきました。

最後に２日間テント前でエコメッセ宣伝マンを引き受けて下さった紙とんぼの会さんや、去年に引き続き全体を回りながらエコメッセの出展をお知らせしてくださったガールスカウトのみなさんありがとうございました。

第５回里山シンポジウム

今年の里山シンポジウムは「里山と生命（いのち）のにぎわい」をテーマに2月から各地で２２の分科会が開かれてきました。全体会は千葉市の協力をいただき、5月１８日(日)東京情報大学(千葉市若葉区)で４５０人の参加のもと開催されました。記念講演に岩槻邦夫氏、パネルディスカッションは堂本知事はじめ農林業家、千葉市観光協会、ケビン･ショート氏、コーディネーターは原　慶太郎氏(情報大学)でした。また、昼食時間中に、キャンパスの里山散策をケビン･ショート氏や情報大学生の案内で、さわやかなみどりを楽しみました。今年度は生物多様性ちば県戦略も策定され、生きものが豊かな里山･里海再生に向けての熱い思いと実行が期待されます。さらに生物多様性の言葉が広く周知されることも大きく期待されています。　(広報部)

分科会報告
里山と生物多様性Ⅱホタルから見えるもの

分科会長　加藤　賢三

毎年分科会が増えて今年はなんと２２になりました。その第22番目の分科会として、「里山と生物多様性2：ホタルから見えるもの」　～どうすれば、地域のホタルが残せるか～というテーマで、平成２０年４月26日（土）、県立中央博物館講堂で、４３人の参加者のもとに行いました。

よく、ホタルは環境のバロメーターといわれています。そしてまた、地域特有の進化を遂げているとも言われています。世界のホタルは約 2000 種、日本では 50 種ほど。千葉県にはゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタル、クロマドボタルその他のホタルが生息しています。地域のホタルがいつまでもの保全されることが望まれています。

今回は、基調講演において、「日本と中国のホタルの多様性～現状と課題～について大場信義さんに伺いました。続いて、県内各地からのホタル事情の報告、それをうけ「地域のホタルを残すための方策」について、パネルディスカッションを行い、今後に向けての提案について議論しました。講師の大場さんの話は、１９８３ 年に沖縄県西表島で特殊な進化を遂げた新種イリオモテホタルを発見したこと。メスはイモ虫状で飛べず、オスを誘う時と抱卵時に発光する珍種の話から始まり、世界のホタルの研究、そして今回は、5 年前から中国科学院と共同調査を続けている中で、日本のホタルのルーツはまさに中国にあるということが中国のホタルの多様性の調査から推測されていました。

一方、千葉県の中でもユニークな調査報告がありました。房総半島のヒメボタル（陸生）の再発見に関して県立中央博物館の倉西良一さん。ゲンジボタルの

幼虫上陸と羽化時期の相関と温暖化によると思われる影響について、夷隅郡市自然を守る会の手塚幸夫さんからの報告。千葉県全域にわたるクロマドボタル（陸生）の生息調査が大和田正さんから報告されました。各地からのホタルだよりは、富里のゲンジボタルとヘイケボタルの調査についてNPO富里ホタルの立花広介さん。四街道のヘイケボタルとクロマドボタルについて、NPO四街道メダカの会　山崎輝清さん。八千代のヘイケボタルに関して、八千代市ほたるの里づくり実行委員会の桑波田和子さんから報告されました。

地域のホタルを残すために、地域の農林業をはじめとしたなりわいの活性化、持続性、地域のホタル生息調査の継続。特にヒメボタルの生息する地域の重点的な調査、できれば、各地域のホタルの遺伝子解析など、そして第三回になる県内のホタルサミットの開催などが期待されます。

資源循環型づくりミニタウンミーティングを環パちばの運営委員会で開きました。

平成１９年度に見なおしされた千葉県環境基本計画を基に 「千葉県廃棄物処理計画」見直すことを目的とし、主に3R 推進等についてのミニタウンミーティングで意見を出しました。

日時：6月2日　午後7時～9時。　会場：船橋市民活動センター　参加者：１４名

運営委員会より

４月運営委員会

日時：4月22日(火)
場所：船橋市民活動センター

【協議事項】

1) 総会準備
2) NPOと県の協働提案応募
　・環境学習コーディネーター事業について

５月運営委員会

日時：　5月12日(月)場所：船橋市民活動センター

【協議事項】

1) 総会準備
　・総会資料、役割分担
2) だより61号について
　※同封するもの：総会資料、会費振込み票
3) 環境学習コーディネーター事業
　・協働提案申請書作成中
4) その他
　・千葉市エコ体験スクール事業応募する。
　・印旛沼環境基金申請
　・千葉エコイズム2008
　　(習志野文化ホール)
　　※名義後援、パネル出展：　5/29
　・ちばし手づくり環境博覧会　6/5～6/10
　・船橋環境フェアー　6/7

６月運営委員会

日時：6月2日(月)　場所：船橋市民活動センター

【報告事項】

・総会　・協働提案・教材作成応募
・千葉市エコ体験スクール応募・・・5月26日応募済み
・千葉北道路などに関する子ども会議について
・千葉エコイズム2008へ出展
　会場：習志野文化ホール

【協議事項】

1.総会の反省と今後の活動。
2.各部会から

【事業部】
・教材作成応募後のプレゼンに向けての準備。
・6月エコサロン開催
・千葉市エコ体験スクール活動内容を今後検討。

【広報部】
・HPの活用
・だよりについて

【会計】
・引継ぎ6月4日。
・会費、会員名簿など検討する。

【事務局】
・各部の調整、補足を行う。
・印旛沼環境基金申請(6/15締め切り)

部会からのお知らせとお願い

◆会計より

・20年度の会費振込み票を「だより61号」に同封いたします。個人会費：1，000円　団体会費：2，000円です。19年度未納の方も合わせてお送りいただければ幸いです。(振込み票にお知らせいたします)
尚、事務手続き上重複して請求の際はご容赦ください。

◆広報部より

・環パちばのHPに団体のイベント紹介などアップいたしますので、是非お知らせください。
また、「だより」へ団体・個人の活動紹介も掲載しますので、下記までお知らせください。
環パちばHP：http://kanpachiba.com/　e-mail：info@kanpachiba.com　FAX：０４３-２４６－６９６９
※だより６１号に５月１７日の総会で承認された資料を同封いたします。

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180

会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

千葉県環境財団　環境技術部　環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		